

平成22年度 近畿・四国ブロック統合メリットを活かした事業
食文化をテーマにした異年齢相互体験学習
文部科学省委託事業「御食国、淡路を学ぶ」

「淡路島」というすばらしい環境の中で、普段では体験することのできないことをたくさんすることができました。また、いろいろな地域から集まってきている人たちと友達になることもできました。このキャンプで、最後まで諦めない気持ちを持つことや協力することの大切さを学びました。

1. 事業実施までの経緯

旧国立の青少年教育施設の統合を契機として、交流の家の事業の一つである高校生リーダー育成事業の成果を自然の家の自然体験を中心としたプログラムに反映させることが可能になった。

近畿・四国ブロックでは、4年を1サイクルとし、「食文化をテーマにした異年齢相互体験」の共通テーマのもと、4施設が連携・協力して事業を実施している。19年度は、国立曾爾青少年自然の家を拠点に、奈良県の古代文化を取り入れた事業を展開した。20年度は、山村に伝承された食文化をテーマとした事業を展開し、当施設がその拠点となった。21年度は、国立室戸青少年自然の家を拠点に、室戸のくじら文化に焦点を当て、海辺の生活で受け継がれてきた食文化をテーマとした事業を展開した。今年度は、国立淡路青少年交流の家を拠点として、かつて御食国（みけつくに）として皇室等へ食材を提供していた淡路を舞台に食文化をテーマとした事業を展開した。

2. ねらい

小学生と高校生リーダーが相互体験学習を通じて、高校生にはリーダーとしての資質、小学生にはコミュニケーション能力等の伸長を企図するとともに、世代間の関わりの中で、次代を担う青少年の育成に資する。

3. 主 催 国立青少年教育振興機構 近畿・四国ブロック4施設
国立淡路青少年交流の家 国立大洲青少年交流の家
国立室戸青少年自然の家 国立曾爾青少年自然の家
4. 後 援 滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・徳島県・京都市・大阪市
・神戸市の各教育委員会
5. 期 日 平成22年8月3日（火）～5日（木）【2泊3日】高校生リーダー事前研修
8月5日（木）～8日（日）【3泊4日】メインキャンプ
6. 場 所 国立淡路青少年交流の家
7. 参加人数 高校生リーダー8名＋小学生24名（淡路・大洲・室戸・曾爾の4施設×6名）
8. 講 師 中原水産有限会社 中原 健太郎 氏
国立淡路・大洲青少年交流の家、室戸・曾爾青少年自然の家企画指導専門職
9. 日 程

□ 8月3日 (火)

14:00

18:00 19:30

22:30

各自然の家・交流の家より淡路へ (所の車で)	入 所 事業趣旨の説明 ボランティアに関すること	夕入 食浴	リーダー企画・打ち合わせ	就 寝
---------------------------	--------------------------------	----------	--------------	--------

□ 8月4日 (水)

6:30 7:00 8:40

12:20 13:00

16:00

19:30 20:30

22:30

起散清 床策掃	つ朝 ど食 い	子どもたちへの具体的な 支援等の在り方について	昼 食	高校生の役割について リーダー企画・打ち合わせ	野外炊飯研修 (夕食も兼 ねる)	入 浴	リーダー企画・ 打ち合わせ	就 寝
------------	---------------	----------------------------	--------	----------------------------	---------------------	--------	------------------	--------

□ 8月5日 (木)

6:30 7:00 8:40

11:50

14:30

17:00 18:00

20:15

21:30 22:30

起散清 床策掃	つ朝 ど食 い	カッター事前研修	昼 食	小学生を 迎え入れ準備	入国式 ～仲間との 出会い	つ夕 ど食 い	食べる① 塩作り・干物 作り体験	講話 淡路の歴史・ 環境	入 浴	就 寝
------------	---------------	----------	--------	----------------	---------------------	---------------	------------------------	--------------------	--------	--------

□ 8月6日 (金)

6:30 7:00 8:40

12:20 13:00

16:00

20:00

21:30 22:30

起散清 床策掃	つ朝 ど食 い	知る① 南海道を知る カッター研修	昼 食	創る① お香作り体験	休 憩	食べる② 淡路島牛丼&干物試食	星空散歩	入 浴	就 寝
------------	---------------	-------------------------	--------	---------------	--------	--------------------	------	--------	--------

□ 8月7日 (土)

6:30 7:00 9:30

11:45 13:30

17:00 19:00

21:30 22:30

起散清 床策掃	つ朝 ど食 い	知る② 地域探究ウォークラリー	昼 食	創る② エール交換会準備の時間	つ夕 ど食 い	創る③ キャンプファイヤーの時間	入 浴	就 寝
------------	---------------	--------------------	--------	--------------------	---------------	---------------------	--------	--------

□ 8月8日 (日)

6:30 7:00

9:30

10:30

12:00

起散清 床策掃	つ朝 ど食 い	清掃 退所点検	出国式 エール交換 ～仲間との別れ～	ふりかえり	解 散	淡路より交流の家へ (送迎バス)
------------	---------------	------------	--------------------------	-------	-----	---------------------

10. 活動内容

【8月3日 (火)～5日 (木)】高校生リーダー事前研修

気温30℃を超える中、高校生ボランティア8名が集合した。期待や不安を抱かせながらも、これから始まる事業のリーダーとしての自覚を秘めた面持ちであった。今回、高校生リーダーがプログラムを企画・運営していかなければならず、各施設の企画指導専門職がアドバイスをしながら、高校生の「おもい」を「形」にできるようにプログラムを作り上げていった。また、ミニレクチャーとして「ボランティア&リーダー講座」や「リーダーの役割と自己伸長」を受け、リーダーとしての目標を明確化した。短い期間の中で、リーダーとしての心構えや資質、数多くのスキルを学んだ。



【8月5日 (木)】メインキャンプ

曾爾、大洲、室戸の各施設から小学生を乗せたバスが、今回の事業拠点となる淡路青少年交流の家へ到着した。小学生は長旅の疲れも見せず、期待と不安、そして楽しみいっぱいの表情で元気にバスから降りてきた。それにこたえるように高校生リーダーも元気にあいさつを交わしていた。最初の入国式の後、高校生リーダー企画の一つであるアイスブレイクが行われた。「キャッチ」や「仲間探しゲーム」、名前を覚えるための「ネームトス」、「輪くぐり」などのゲームを行い緊張した小学生たちをうまく引き込んで打ち解けた雰囲気を作っていた。その後、食べる①と題して、塩作り・干物作りを行った。塩作りは海から汲んできた海水を製塩土器と焚火で煮詰める方法で塩を作った。参加者から「あれだけ沢山の海水からこれしか塩ができないのか」といった感想が聞かれた。干物作りは、鰯を1匹つかい、背開きにしてえらや内臓を取りのぞいたが、ほとんどの小学生が魚をさばくのは初めてで、最初はおっかなびっくりで包丁を入れていた。普段自分たちが食べているものは、これだけ手間をかけて調理され、また、干物にすることで冷蔵庫の無い時代に保存する方法を考えた昔の人は賢いという声が聞かれた。



【8月6日（金）】

2日目は、知る①と題して、五畿七道の一つである南海道の一部をカッターで漕ぎ、御食国としての淡路国、その食材をどのように運んでいったかなど、いにしえの人々の生活についての理解を深めた。当日は夏の暑い日差しが照りつける中であつたが、櫂を揃えてしっかりと漕いでいた。全員で協力してカッターを漕いだことにより、グループの連帯感が生まれた。午後は淡路島の伝統産業であるお香づくり体験を行い、夕食は前日に自分で加工した干物と淡路島牛丼を食べた。普段あまり魚を食べないという参加者も「自分で作った干物は美味しい」と残さずに食べていた。そして、この日の最後は星空散歩と称して、吹上浜に出てグループごとに星空を眺めながら、今回のキャンプに来ての感想や目標などを確認しあい、友情を深めた。



【8月7日（土）】

3日目は、ウォークラリーとキャンプファイヤーを行った。淡路島は御食国として、海から恵みを受けて生活していた海人族（あまぞく）と呼ばれる



人々が古くから生活していた。そのような地域をより深く知るために、「地域探究ウォークラリー」を実施した。グループで協力をして課題を解決しながら御食国の理解を深めた。午後は、小学生と高校生リーダーが分かれてのエール交換準備の時間とした。お互いが感謝の気持ちを込めてサプライズの演出を考えた。夜は、吹上浜でキャンプファイヤーを行った。4日間の事業をふりかえるとともに、一緒に過ごした仲間たちとレクやゲームで楽しい時間を過ごした。

【8月8日（日）】

4日目はエール交換会・出国式を行った。高校生リーダーから歌のプレゼントのほか、小学生参加者一人ひとりにメッセージを書いた「修了証」を手渡した。メッセージは自分の班のメンバーへ渡すという形をとり、4日間生



活を共にしたメンバーだけあって気持ちのこもった温かい修了証となった。その後、小学生からもプログラムや生活面でサポートしてくれた高校生リーダーに感謝状と「カントリーロード」をアレンジした歌を贈った。お互いが4日間のがんばりを讃えあい、最後は高校生リーダーや小学生の目から涙があふれ、感動的なフィナーレとなった。



1.1. 参加者の声

- 違う地域、県の子と友達になれたのが良かった。
- 北海道を知るカッター体験が心に残った。
- 友だちになることで、協力する心とさらに仲を深めようとする心が生まれた。
- はじめは他の地域の子たちと仲良くなれるかすごく不安だったけど、いつのまにか仲良くなって充実した4日間を過ごすことができるとてもうれしかった。
- みんなと一緒にいるとすごく楽しくて、嬉しくて笑顔が出てきて、たまにいやなこともあったけど、みんな全部素晴らしい思い出です。もっとずっと一緒にいたいと思う仲間ばかりだった。

1.2. 成果と課題

本事業は、国立青少年教育振興機構の近畿・四国ブロックの4施設（淡路・大洲交流の家、曾爾・室戸青少年自然の家）が統合したメリットを活かし、「食文化をテーマにした異年齢相互体験」をテーマにした事業である。四年目である今回は淡路青少年交流の家が担当施設となり「御食国、淡路を学ぶ」と題して、御食国として発展した淡路島の食文化、伝統産業に焦点をあて、高校生ボランティアをリーダーとして実施した。入国式やキャンプファイヤー、エール交換などのプログラムは、事前に高校生リーダーが集まり企画立案を行い、どのような内容や取り組みをすれば、小学校同士のコミュニケーションが活発になり、学びが深められるかを考えて実施した。また生活面のサポートも高校生リーダーが行い異年齢交流の要素も取り入れた事業展開とした。高校生リーダーが部分的ではあるがプログラムの企画を行ったことや、小学生参加者の生活面のサポートをすることでリーダーとしての意識が高まった。また、4施設がそれぞれ参加者を募集したため、自分の住んでいる地域と違う参加者と出会えることは意義深く、メンバーと協力する大切さを学んだ。小学生参加者は、御食国であった淡路の食文化に理解を深めるとともに、高校生リーダーとの異年齢交流を通じて、一回り成長した様子であった。今後の課題としては、統合のメリットを活かした事業として4つの施設において事業実施が一巡したことから、施設持ち回りの事業形態については一度完結させ、4回の事業で積み上げたプログラム内容、運営方法などのノウハウとネットワークを活かしつつ、新たな展開に向け検討を重ねていく必要がある。